| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | アカデミックスキル特講（1年次・①） | 2単位 |

| | |
|---|---|
| 担当者職・氏名 | 教授・平岡　透（科目責任者） |
| 授業概要とテーマ | 複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることができる研究者としての基本的なスキルの修得を目指した授業である。具体的には、望ましい倫理規範の会得、研究のプロセス、すなわち、研究課題の設定、文献検討の方法、研究デザインの組み立て、研究方法の設定、結果の解釈、総括等の方法のほか、研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法の獲得のための内容が展開される。なお、この授業では1テーマにつき3回の授業において異分野の教員がチームで取り組み協力することで、受講生の専門分野とその周辺領域の観点から研究の拡大と深化を支援する。 |
| 到　達　目　標 | 1）受講生自身の専門分野における研究の最近の動向、研究課題、研究倫理、研究デザイン、研究結果の解釈方法、研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法を理解し活用できる。<br>2）受講生自身の専門分野だけでなく、他分野の研究の最近の動向、研究課題、研究倫理、研究デザイン、研究結果の解釈の方法の概略を理解できる。<br>3）複数の学問分野の実状を理解した上で、学際的な研究を遂行できる方法を見出すことができる。 |

| 授業計画 | 回 | 主題 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| | 1 | 研究倫理を考える―基礎的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する論文の適正・適切な引用方法、データ改ざん・捏造等の禁止、二重投稿の禁止、オーサーシップなど、研究者として知っておくべき基礎的な研究倫理の留意点を解説する。（橋本（松本）優花里・島　成佳・大曲勝久） |
| | 2 | 研究倫理を考える―専門分野に特徴的な理解 | 第１回授業の内容を踏まえ、地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究倫理の留意点を解説する。<br>（橋本（松本）優花里・島　成佳・大曲勝久） |
| | 3 | 研究倫理を考える―専門分野以外との比較を通じた理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野での研究倫理の留意点を概説するとともに、それらと受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究を遂行する上での課題を検討する。<br>（橋本（松本）優花里・島　成佳・大曲勝久） |
| | 4 | 最新の研究動向について知る―基礎的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に関わる基礎的な研究動向を解説する。<br>（宮地晃輔・平岡　透・城内文吾） |
| | 5 | 最新の研究動向について知る―専門分野に特徴的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究の動向を解説する。（宮地晃輔・平岡　透・城内文吾） |
| | 6 | 最新の研究動向について知る―専門分野以外との比較を通じた理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究動向について概説し、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究を発展させるための視点を提供する。<br>（宮地晃輔・平岡　透・城内文吾） |
| | 7 | 研究課題を設定する―基礎的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に関わる基礎的な研究課題についてホットトピックを解説する。（荻野　晃・星野文学・大曲勝久） |
| | 8 | 研究課題を設定する―専門分野に特徴的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究課題について解説する。（荻野　晃・星野文学・大曲勝久） |
| | 9 | 研究課題を設定する―専門分野以外との比較を通じた理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究課題におけるホットトピックを概説し、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究の深化を図る。<br>（荻野　晃・星野文学・大曲勝久） |
| | １０ | 研究をデザインする―基礎的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に向けた基礎的な研究のデザインの方法を解説する。<br>（関谷　融・山﨑陽一・松澤哲宏） |
| | １１ | 研究をデザインする―専門分野に特徴的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究のデザイン方法を解説する。（関谷　融・山﨑陽一・松澤哲宏） |
| | １２ | 研究をデザインする―専門分野以外との比較を通じた理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究のデザイン方法を概説するとともに、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究デザインの充実を図る。<br>（関谷　融・山﨑陽一・松澤哲宏） |
| | １３ | 研究結果を分析し、解釈する―基礎的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生を念頭に置いた基礎的な研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について解説する。（関谷　融・片山徹也・大曲勝久） |
| | １４ | 研究結果を分析し、解釈する―専門分野に特徴的な理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について解説する。（荻野　晃・片山徹也・大曲勝久） |
| | １５ | 研究結果を分析し、解釈する―専門分野以外との比較を通じた理解 | 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野での研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について概説し、受講生の専門領域の内容との比較を通じて、研究成果を多角的に検討する方法を支援する。（宮地晃輔・片山徹也・大曲勝久） |
| | １６ | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価の基準 | Ａ（優）・・・80～100点<br>Ｂ（良）・・・70～79点<br>Ｃ（可）・・・60～69点<br>Ｄ（不可）・・・59点以下 |
| 成績評価の方法 | レポート（講義の理解度を評価）・・・８０％<br>ディスカッション（参加姿勢も評価）・・・２０％ |
| テ　キ　ス　ト | 特に指定しない。 |
| 参考文献 | 西山敏樹ら：「データ収集・分析入門　-社会を効果的に読み解く技法（アカデミック・スキルズ）」慶応義塾大学出版会 |
| 科目のキーワード | アカデミック・スキル、研究デザイン、研究倫理 |
| 授　業　の　特　徴 | 地域創生学専攻の3つの専門分野の教員が3人1チームとなり、研究動向、研究課題、研究倫理、研究デザイン、研究結果の解釈の5つの観点から、それぞれの専門性を踏まえながら受講生の研究を学際的に支援する。メディア授業。 |
| 関 連 科 目 | 地域創生学特講、地域創生学演習 |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | 必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の３分の２以上の出席を要する。 |

| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | 地域創生学特講（1年次・①） | 2単位 |

| | |
|---|---|
| 担当者職・氏名 | 教授・谷澤　毅（科目責任者） |
| 授業概要とテーマ | 複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図るための多角的な視点の獲得を目指す。すなわち、受講生がこれまで培った専門知識を一層高度化させ、かつ、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学分野の知識を組み合わせ・活用することで地域貢献に資するためのつなぐ力の獲得を主眼とする。<br>そのために、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員が、これらの領域と地域創生との関連性について、３分野が相互に関連して地域課題解決に応用される例として、主に①地域社会の持続可能性、②地域社会における生活と経済、③地域社会のグローバル化、④地域社会のアクセシビリティ、⑤地域社会の健康維持の観点から講義を行うとともに各観点が地域創生に果たす役割について考え、その実現に向けた方策について検討する。 |
| 到　達　目　標 | 1）地域社会の課題を解決するために、受講生自身の専門分野の知識や技術を基に、異なる専門分野と協働した方策の必要性及び重要性が理解できる。<br>2）学問領域を超えた広い視野に立って地域社会の問題を解決するために必要な基礎的知識を獲得し、組み合わせて活用することができる。 |

| | 回 | 主題 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1 | 総論 | 本科目の内容とねらいについて概略を紹介する。そして、ドイツ中世都市の発展と現状などを事例としながら地域の成り立ちとあり方の一端について検討するとともに、歴史学的なアプローチが地域創生の実現の鍵となる可能性について理解が深まるよう、地域についての史的考察とその意義の解説を加える。（谷澤　毅） |
| | 2 | 地域マネジメント分野から考える地域社会の持続可能性へのアプローチ | 地域社会を含めた持続可能社会を構築する上での課題について協働型ガバナンスと合意形成論の観点から、自然科学・生命科学の専門家もかかわった自然再生事業、感染症対策、社会資本整備、人材育成の事例に基づき地域創生のヒントを探る。（石田聖） |
| | 3 | 地域情報工学分野から考える地域社会の持続可能性へのアプローチ | 観光サービスマーケティングと観光サービスデザインについての事例研究を通して、観光情報システムが地域外食産業や食文化の活性化といった地域創生に果たす役割を考え、それにより未来を創造する発想力を身に付けることを目指す。<br>（吉村元秀） |
| | 4 | 人間栄養健康科学分野から考える地域社会の持続可能性へのアプローチ | 食品の機能性に関する研究は、食品系企業や地域経済の活性化にとってもますます重要な戦略の一つになっている。近年の研究の中から、特に脂質代謝調節に関する食品機能の研究について概説し、食品開発が地域創生に果たす役割を考える。<br>（古場一哲） |
| | 5 | 地域情報工学分野から考える地域社会の生活と経済の関連性へのアプローチ | 企業誘致や地域定住に深く関わるリモートワーク・テレワークや食生活・健康増進の情報共有に欠かせないインターネット基盤について、経路制御、名前解決に関わる最新のセキュリティ技術とその運用について学び、それらが地域創生に果たす役割について考える。（岡田雅之） |
| | 6 | 人間栄養健康科学分野から考える地域社会の生活と経済の関連性へのアプローチ | 運動習慣形成に有効な情報発信とは？健康増進による地域の経済効果は？等も含めて、健康増進が地域創生に果たす役割について皆で意見を出し合い、現在の地域が有する問題解決に向けた検討を行う。（飛奈卓郎） |
| | 7 | 地域社会マネジメント分野から考える地域社会のグローバル化へのアプローチ | グローバル化の進展に伴い、地域社会のレベルにおいても外部の国・地域との接触が常態化しており、こうした状況から日々発生する問題を的確に把握し対処することが求められている。この回では、とくに経済活動に関連する国際法ルールに焦点をあて、地域社会における活動やそこで生じる問題がどのように国際法ルールと関わっているのか、そして国際法ルールが具体的な問題解決にとってどの程度有用なのかを把握することにより、地域創生における法の役割を考える。（平見健太） |
| | 8 | 地域情報工学分野から考える地域社会のグローバル化へのアプローチ | 地域の少額即時決済あるいは体調等の個別スマートサービス等において必須となる、人・動物や農産物・工業製品の即時識別のための生体認証を通じ、身近にある生体情報とそれを活用した認証技法、および個人やモノを識別するための機械学習法に関する知識を学ぶ。そして、生体認証技術が地域創生に果たす役割について考える。（喜多義弘） |
| | 9 | 人間栄養健康科学分野から考える地域社会のグローバル化へのアプローチ | 地域の高齢者の健康維持に影響する可能性がある買い物行動や、人口構成が変わることによる感染症の基本再生産数の変化などについて概説する。そして、高齢者の健康維持と地域創生の関係について考えたうえで、現在の地域が有する問題解決に向けた栄養疫学分野からのアプローチを検討する。（竹内昌平） |
| | １０ | 地域社会マネジメント分野から考える地域社会のアクセシビリティへのアプローチ | SDGsの目標と関連しつつ、地域社会を含めた持続可能な超スマート社会を構築するためには、イノベーション能力、メディアの情報伝達、地域社会のニーズの掘り起こしなど多くの課題があることを概説する。そして、地域創生における超スマート社会の実現に向けた地域コミュニティの課題について検討する。（賈曦） |
| | １１ | 地域情報工学分野から考える地域社会のアクセシビリテへのアプローチ | 地域社会で活用される情報コンテンツの色彩情報がアクセシビリティ及びユーザビリティに及ぼす影響について、デザイン学や人間工学等を踏まえた学際的観点から概説する。そして、地域創生に必要な多様な利用者にとって望ましい情報アーキテクチャの設計手法について検討する。（片山徹也） |
| | １２ | 人間栄養健康科学分野から考える地域社会のアクセシビリティへのアプローチ | 生活習慣病である慢性疾患を抱えた高齢者に対して、栄養を維持することが重要である。高齢者の栄養状態の改善についての意見交換を行い、特に専門医などの医療資源が不足している離島などの地域に向けてどのように情報発信していくかについて、地域創生の観点から検討する。（世羅至子） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | １３ | 地域社会マネジメント分野から考える地域社会の健康維持へのアプローチ | 地域社会において業務の継続が求められる交代制勤務者について、特有の睡眠・疲労の実態を概説する。そのうえで、リスクの所在と有用なマネジメント方法を多角的なアプローチから考察し、地域創生を担うエッセンシャルワーカーの健康維持を含めた課題について検討する。（大重育美） |
| | １４ | 人間栄養健康科学分野から考える地域社会の健康維持へのアプローチ | 疾病を予防し、健康維持に必要な栄養情報を得て食事管理をするプロセスの中で、地域の人々がとる行動への動機づけや栄養教育の課題について概説する。そのうえで、地域創生に欠かせない栄養教育の在り方について考える。（石見百江） |
| | １５ | 地域情報工学分野から考える地域社会の健康維持へのアプローチ | 地域社会におけるQOL（生活の質）に直結する「楽しさ」や「感動」といった心の豊かさ（感性価値）をもたらす新しい科学技術として、感覚・感性を指標化する手法に関する知識を修得し、感性情報学分野の基本的な資質を身につけることを目指す。そして、心の豊かさが地域創生に与える効果を考える。（山﨑陽一） |
| | １６ | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価の基準 | Ａ(優)・・・80～100点<br>Ｂ(良)・・・70～79点<br>Ｃ(可)・・・60～69点<br>Ｄ(不可)・・・59点以下 |
| 成績評価の方法 | レポート・・・５０％<br>プレゼンテーション・・・５０％ |
| テ　キ　ス　ト | 特に指定しない。 |
| 参考文献 | 必要に応じて学術論文等の文献を事前に提示する。 |
| 科目のキーワード | 研究倫理、研究方法、効果的な研究発表 |
| 授　業　の　特　徴 | それぞれの教員が、自己の専門分野の知見を基盤として地域創生に係る種々の課題について多角的な視点を提供し、受講生の理解を深める授業である。 |
| 関 連 科 目 | 地域創生学演習、全ての専門科目、特別研究 |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | 必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の３分の２以上の出席を要する。課題については、教員の指示により適宜提出すること。 |

| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | 地域創生学演習 | 2単位 |

| | |
|---|---|
| 担当者職・氏名 | 教授・大曲勝久（科目責任者） |
| 授業概要とテーマ | 複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることの意義の理解を深めるための内容を展開する。「地域創生学特講」で学んだ内容を基に、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員から提示される、上記の3分野にまたがる実際あるいは想定される具体的な課題に対し、解決するための方策の立案方法や評価方法について1課題につき5回の演習を行う。5回目の授業では、それらの内容の関連性を踏まえたうえで統合的な発展の方策や受講生の研究テーマへの応用を検討しプレゼンテーションを行うことで学際的な研究方法について領域を超えた問題解決方法の理解を深める。また、各専門分野の基礎研究および実践研究が地域の活性化にどのように貢献しうるかを理解する。 |
| 到　達　目　標 | 1）地域社会の課題を解決するために、自身の専門分野の知識や技術を基に、異なる専門分野と協働した方策を立案できる。<br>2）学問領域を超えた広い視野に立って、複数の分野の知識を組み合わせて地域社会の課題解決に向けた方策を立案できる。 |

| | 回 | 主題 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 授業計画 | 1 | 地域社会の課題1に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題1に対して、主に地域における人と社会の関係性など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。<br>（坂田謙司、ソムチャイ　チャットウィチェンチャイ） |
| | 2 | 地域社会の課題1に対する地域情報工学分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題1に対して、主にデータを活用したビジネスインテリジェンスなど地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。<br>（ソムチャイ　チャットウィチェンチャイ、飛奈卓郎） |
| | 3 | 地域社会の課題1に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題1に対して、主に地域の健康の保持など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。（飛奈卓郎） |
| | 4 | 地域社会の課題1に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ | 提示された地域社会の課題1に対して、地域におけるメディアやモビリティの課題を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。（坂田謙司） |
| | 5 | 地域社会の課題1に対するアプローチ：検討結果の発表と討論 | これまでに検討した課題1に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表（プレゼンテーション）と討論を行う。<br>（坂田謙司、ソムチャイ　チャットウィチェンチャイ、飛奈卓郎） |
| | 6 | 地域社会の課題2に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題2に対して、主に地域活性化(地域計画）など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。（車相龍、齋藤正也） |
| | 7 | 地域社会の課題2に対する地域情報工学分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題2に対して、主に時系列データ解析など地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。（齋藤正也、竹内昌平） |
| | 8 | 地域社会の課題2に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題2に対して、主に地域の栄養課題（栄養教育）など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。（石見百江、車相龍） |
| | 9 | 地域社会の課題2に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ | 提示された地域社会の課題2に対して、栄養疫学を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。（竹内昌平、石見百江） |
| | １０ | 地域社会の課題2に対するアプローチ：検討結果の発表と討論 | これまでに検討した課題2に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表（プレゼンテーション）と討論を行う。<br>（車　相龍、齋藤正也、石見百江、竹内昌平） |
| | １１ | 地域社会の課題3に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題3に対して、主に経済学（マーケティング）など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。（神保充弘、吉村元秀） |
| | １２ | 地域社会の課題3に対する地域情報工学分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題3に対して、主に知覚情報処理やソフトコンピューティングなど地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。<br>（吉村元秀、大曲勝久） |
| | １３ | 地域社会の課題3に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ | 提示された地域社会の課題3に対して、主に臨床栄養学など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。（大曲勝久、古場一哲） |
| | １４ | 地域社会の課題3に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ | 提示された地域社会の課題3に対して、食品開発を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。（古場一哲、神保充弘） |
| | １５ | 地域社会の課題3に対するアプローチ：検討結果の発表と討論 | これまでに検討した課題3に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表（プレゼンテーション）と討論を行う。<br>（神保充弘、吉村元秀、大曲勝久、古場一哲） |
| | １６ | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価の基準 | Ａ(優)・・・80～100点<br>Ｂ(良)・・・70～79点<br>Ｃ(可)・・・60～69点<br>Ｄ(不可)・・・59点以下 |
| 成績評価の方法 | レポート（課題の分析内容、課題解決に向けた検討の成果）・・・５０％<br>プレゼンテーション（検討結果の発表と討論態度）・・・５０％ |
| テ　キ　ス　ト | 特に指定しない。 |
| 参考文献 | テーマ毎に、必要に応じて学術論文等の文献を事前に提示する。 |
| 科目のキーワード | 地域社会の課題、課題解決方法の策定 |
| 授　業　の　特　徴 | 掲げられたテーマのもとに、異なる3分野の教員がチームとなって受講生の問題解決スキルの向上を支援する授業である。メディア授業。 |
| 関 連 科 目 | 地域創生学特講、全ての専門科目、特別研究 |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | 必須科目である。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の３分の２以上の出席を要する。<br>課題については、教員の指示により適宜提出すること。 |

| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | 地域マネジメント特講（１年次・③） | 2単位 |

| | |
|---|---|
| 担当者職・氏名 | 教授・宮地晃輔（科目責任者） |
| 授業概要とテーマ | 地域マネジメント分野を担当する教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、最終的には地域社会マネジメント分野における全体的な教育・研究内容を理解させることを目的としている。<br>地域マネジメント特講では,ローカル及びグローバルの観点から主に経営学、経済学、政策科学の社会科学的アプローチによって地域社会について主にマネジメント・歴史・地域計画等の視点から講義テーマを構成している。<br>本講義において地域社会における課題を的確に把握・分析し、解決策を導出できる能力を涵養するために、主に経営学、経済学、以上に関連する社会科学の領域からオムニバス方式によって各教員の専門分野からの講義テーマを提供することで、受講者の地域マネジメント領域における高度な専門性を涵養するとともに博士論文テーマ設定の検討にも寄与できる講義を行う。<br>なお、この講義は2分野あるいは3分野に渡る研究課題に取り組む地域情報工学分野及び人間栄養健康科学分野の博士後期課程学生へ向けても開講されている。他分野の学生の履修にも充分な配慮するために当該分野の指導教員と連携しながら講義を展開する。 |
| 到　達　目　標 | 1) 地域マネジメントにおける現代の主要テーマについて全体的な動向が理解できる。<br>2) 自分の研究領域と各教員の専門領域との関連性を検討することで、自分の研究の幅や取り組みを拡大できる。<br>3) 講義内容を手掛かりとして、受講生各自の博士学位論文のテーマ設定について具体的な検討を行うことができる。 |

授業計画

| 回 | 主題 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 講義の導入と概要説明 | 本講義の概要について解説を行う。講義前半では、本講義開設の目的について述べたのちに「地域マネジメントユニット」、「地域社会ユニット」を担当する教員がどのような内容の講義を実施するかをあらかじめ解説する。講義後半では、本講義のキーワードをなす「地域」という概念について社会経済史学の観点から光を当て、「地域」という観点から社会を分析していく手法の可能性の一端を受講生は理解する。<br>（宮地晃輔） |
| 2 | 地域と組織会計システム | 営利組織（営利企業）・非営利組織（行政機関等）のいずれも経営組織体として組織目的の到達(達成)のために会計システムを運用することが必要になる。地域企業・地方自治体においては経営資金や財源に関して選択集中的・戦略的な資源配分の必要度・喫緊度が大都市部（中央）と比較して格段に高く、これを支える会計システム運用に対する高度な「知」が必要となっている。本講義では組織会計システムを地域組織を主体として、その最新動向をふまえたうえで講義を行う。（宮地晃輔） |
| 3 | 地域とリスクマネジメント | 地域の営利組織・非営利組織ともに，その組織価値を増大させるため，リスクマネジメントに取り組んでいる。本講義では，リスクマネジメント研究の最新動向を踏まえ，受講者の関心のある地域組織を念頭に置いた講義を行う。<br>（鴻上喜芳） |
| 4 | 地域とマーケティング史 | リーマンショック以降の国内市場の急速な縮小・成熟化は、日本企業の海外進出の動きを加速化させることとなった。その進出先は先進国市場から新興国市場へとシフトした。この講義では、新興国市場、とりわけアジア市場における日本企業のマーケティング戦略を歴史的な観点から明らかにすることを通じて、その実態と特徴について考察する。その際、国内市場と海外市場におけるマーケティング戦略の比較・検討や、先進国市場と新興国市場におけるマーケティング戦略の比較・検討など、多様な視点からアプローチする。（神保充弘） |
| 5 | 地域と国際経済 | 経済のグローバル化が進むにつれて生産要素（資本・労働）の国際間移動が活発となっている。従来の経済理論では生産要素の国際間移動を前提としていないため、現在の様々な経済問題を分析する際に矛盾や限界を生じる状況となっている。グローバルな問題は地域経済にも影響するグローカルな問題でもある。生産要素の国際間移動が国内外、さらには地域にもたらす影響と問題点について講義をおこなう。（矢野生子） |
| 6 | 地域と国際物流 | 物流の概念は、物的流通からロジスティックス、サプライチェーン、ブロックチェーンと変遷してきた。まずは、物流概念の変遷とその背後にある経済事象を確認する。そのうえで、地域、国内、グローバルに求められる物流とはなにか、また、日本が世界的に貢献する物流についても学ぶ。（山本裕） |
| 7 | 地域社会情報学 | ネットワーク経済論の観点から、地域主体（ローカル／ドメスティック／インター—ナショナル／リージョナル／グローバル）の社会情報ネットワークをいかに構築し、社会的に受容すべきか。政治文化や社会文化的要因も考慮しながら、ネットワーク経済分析の概念・手法ならびに事例研究を紹介しつつ講義する。（河又貴洋） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業計画 | ８ | 地域マネジメントユニットのまとめ | 地域マネジメントユニットのテーマであった「地域と組織会計システム」、「地域とリスクマネジメント」、「地域とマーケティング史」、「地域と国際経済」、「地域と国際物流」、「地域社会情報学」に対して、受講者各自が全体的視野からの総括を行い、かつ理解を深化させることを目指す。具体的には長崎県地域の諸問題に対するマネジメントを軸とした総括と深化を図る講義を行う。（宮地晃輔） |
| | ９ | 地域流通史 | 生産と消費を取り結ぶ流通が地域社会の発展に以下に寄与してきたか、この点を明らかにするために近世・近代のドイツ北部の商業都市であるリューベックやハンブルク、ライプツィヒなど北方ヨーロッパの都市を題材として交易路の形成や商品流通の展開について解説する。地域としての都市社会が、「移動と交流」を伴う流通を通じて「開かれた地域」となり発展が促されることを受講生はこの講義を通じて理解する。（谷澤毅） |
| | １０ | 地域計画論 | 地域計画は、土地と人間の結合についてその形式・内容・方法・手順などをあらかじめ考えることで、結合の産物である場所の営為に資する行為である。本講義では、地域政策・地域戦略や国土計画・都市計画など地域計画の内包的・外延的概念間の違いに留意しながらこれまでの地域計画の功罪を問い、地方（非首都地域）に足軸を置いてこれからの地域計画のあり方を展望する。（車相龍） |
| | １１ | 地域歴史資料論 | 近年観光や地域活性化に文化遺産を活用する動きが、国を挙げて取り組まれている。こうしたことは地域歴史資料なくしてあり得ないが、地域歴史資料そのものへの理解は深まっていないのが現状である。地域住民のアイデンティティ形成にも大きな役割を果たす地域歴史資料の社会的役割について、あるいはそれを持続させるための諸課題など近年の事例などを提示しながら具体的に論じていく。（松尾晋一） |
| | １２ | 協働型ガバナンスと合意形成 | 近年SDGsなど持続可能社会の構築を促すため公民連携、協働型ガバナンスが注目されている。貧困や食糧問題、気候変動、感染症対策など複雑な政策課題の解決に向け、分野横断的かつ効果的なマルチステークホルダープロセスの構築に向け関係者間でいかに合意形成を図るかは、持続可能社会を構築する上で大きな課題である。本講義では、これらの課題について協働型ガバナンスと合意形成論の観点からさまざまな話題と知識を、講義を通して取り扱う。（石田聖） |
| | １３ | 地域社会ユニットまとめ | 長崎県の地域社会の形成事例を取り上げることにより、受講生が「地域社会ユニット」担当教員が実施した講義から学んだ内容をより深化させる機会を設ける。具体例として取り上げるのは軍港都市佐世保の成立と発展である。近代になり佐世保が軍港都市としていかに急速な発展を遂げたか、他の都市とは異なる佐世保の特異な形成・発展史を学ぶことにより、受講生は長崎県県北地域の都市社会の特徴を史的側面から理解する。（谷澤毅） |
| | １４ | 世界史のなかの長崎 | 受講生の「地域」に関する視野を広げるために世界史的な視野の中で長崎について考える機会を設ける。ここでは、地域として「鎖国」と言われた管理貿易体制下にあった江戸時代の長崎の都市社会を念頭に置く。オランダとの交流を通じて近世・近代の世界経済体制のなかでしめた位置、オランダの長崎進出に至るまでの歴史的背景、ヨーロッパにおける長崎に関する情報の伝播について受講生は理解する。（谷澤毅） |
| | １５ | 講義全体のまとめ | 地域社会マネジメント特講の総括を行い、受講者各自が今後の研究テーマの設定につなげていくための論点を整理する。（宮地晃輔） |
| | １６ | 定期試験は実施しない | 成績評価については「成績評価の方法」欄参照 |
| 成績評価の基準 | | Ａ（優）・・・80～100点<br>Ｂ（良）・・・70～79点<br>Ｃ（可）・・・60～69点<br>Ｄ（不可）・・・59点以下 | |
| 成績評価の方法 | | 地域マネジメントユニット講義レポート課題・・・３０％<br>地域社会ユニット講義レポート課題・・・３０％<br>プレゼンテーション課題・・・４０％ | |
| テ　キ　ス　ト | | 第1回目講義の「講義の導入と概要説明」の際に説明する。 | |
| 参考文献 | | 適宜、各回担当の教員より説明する。 | |
| 科目のキーワード | | 地域マネジメント、地域社会マネジメント、社会システム | |
| 授　業　の　特　徴 | | 大学院担当教員のオムニバス形式による授業、メディア授業。<br>課題については、教員の指示により適宜提出。 | |
| 関 連 科 目 | | 大学院・地域創生学専攻のすべての専門科目、地域社会マネジメント分野のすべての科目 | |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | | 選択必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の３分の２以上の出席を要する。 | |

| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | 地域システム特講（１年次・③） | 2単位 |

| | |
|---|---|
| 担当者職・氏名 | 教授・坂田謙司（科目責任者） |
| 授業概要とテーマ | 地域社会マネジメント分野を担当する教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、最終的には地域社会マネジメント分野における全体的な教育・研究内容を理解させることを目的としている。<br>このため、地域システム領域から幅広い知識を修得し、グローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会・人間科学領域のアプローチによって地域社会についての研究を支援する。したがって、地域システム特講は必須科目で、地域社会マネジメント分野の博士後期課程学生はすべて受講することが義務づけられる。学生は、自身の研究領域と各教員の専門領域との関連性を検討することで、自身の研究の幅、取り組みが拡大することを期待する。教員は地域社会マネジメント分野全体からみて、どこに自分の専門領域が位置するのかを説明するので、学生は自分の研究領域を把握し、その専門領域の講義との関連性について考察することが重要である。<br>なお、この講義は2分野あるいは3分野に渡る研究課題に取り組む地域情報知能分野及び人間栄養健康科学分野の博士後期課程学生へ向けても開講されている。他分野の学生の履修にも充分な配慮するために当該分野の指導教員と連携しながら講義を展開する。 |
| 到　達　目　標 | 1）地域システム領域の全体的な動向が理解できる。<br>2）自分の研究領域と各教員の専門領域との寒冷性を検討することで、自分の研究の幅や取り組みを拡大できる。<br>3）講義内容を手掛かりとして、受講生各自の博士学位論文のテーマ設定について具体的な検討を行うことができる。 |

| 授業計画 | 回 | 主題 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| | 1 | 講義の導入と概要説明 | 本講義の概要について解説を行う。講義前半では、本講義開設の目的について述べたのちに「グローバル社会ユニット」、「ネットワーク社会ユニット」、「人間社会ユニット」を担当する教員がどのような内容の講義を実施するかをあらかじめ解説する。講義後半では、本講義のキーワードをなす「地域」という概念についてグローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から光を当て、「地域」という観点から社会を分析していく手法の可能性の一端を受講生は理解する。（坂田謙司） |
| | 2 | 近現代中国の政治社会研究 | 近現代中国における国家権力と社会との関係特に農村地域における権力構造・国家権力の動きと国家意思の滲透などの解明を目指し、文献資料の解読及び現地調査の資料を利用して講義する。中国の社会における国家権力は「鈍らな包丁」のようなものである。普通には緩やかにして、ものを切れない「鈍らな包丁」のようなものが、一旦動くと、まさに「鈍らな包丁」であるので、必ず絶大なパワーを以って叩き切らなければならない。中国における国家権力の強さは場合によって非常に異なっていると言える。これは中国の国家権力と社会との関係を分析する際に注意すべきところであると思う。（祁建民） |
| | 3 | グローバル社会における中国文化 | グローバル社会における中国文化の位置付けを考える。まず、中国文化に関する高度な知識を身に付けるために必要な情報収集、分析などの基本的な手法について概説する。次に、これに基づいて時代のニースに合った中国学の発展可能性について実例に基づきながら議論する。（山本周） |
| | 4 | グローバル化する国際社会の課題 | 冷戦終結とグローバル化の進展から30年以上を経た現在の国際社会への理解を深めることを目的とする。具体的には、カネ・モノ・ヒト・サービスの移動がもたらした問題点として、国際テロ、移民・難民、先進国でのポピュリズムの台頭と政党システムの変容に焦点をあてる。さらに、今日の新型コロナウィルスのパンデミック状況が国際政治におよぼした影響について考察する。（荻野晃） |
| | 5 | 国際移動・移住のこれから | 人口減少という地域課題に応えるうえで鍵となる関係人口の拡大には、近隣諸国からの観光、留学、就労等を目的にした来訪、中期滞在、移住が期待される。そこでこの回では、法学分野からのアプローチとして、国際人権法および国際経済法の分野にみられる「人の越境移動に関するルール」を考察する。そのうえで、円滑な国際移動・移住に関する枠組みを把握し提案する能力を養う。（平見健太） |
| | 6 | グローバルユニットのまとめ | グローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から、法学・政治学、国際関係論などに関連する社会・人間科学領域のアプローチによって地域社会に関する研究について受講者各自が全体的視野からの総括を行い、かつ理解を深化させることを目指す。（祁建民） |
| | 7 | 地域社会におけるネットワークとモビリティ | 地域社会におけるネットワークとして最小単位のコミュニティからグローバル規模まで情報通信とモビリティをテーマとする。地域密着型の放送メディアとインターネット、ローカル交通と大陸間移動手段など規模の相違から一見すると比較対象とならないような事例についてネットワークとモビリティをキーワードとして「つながり」を見出す機会を提供する。長崎県では公共交通のICT化社会実装や再生可能エネルギーの実用化実験など様々な取り組みが繰り広げられている。これらの産学官プロジェクトについて、社会的背景、形成過程と現状を考察してサービス提供側の役割と利用者側の受容などを手掛かりに地域社会の将来を展望する。（坂田謙司） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業計画 | ８ | 地域メディアの位相と可能性 | 新しい情報技術の進展により、情報環境の変容と共にメディアのエコシステムも大きな転換を迎えている。その中に地域メディアの変容に注目し、地域メディア論及び地域情報化論の展開を整理した上、ニューメディア時代における地域メディアの位置付け、さらに情報力及び情報発信力を多層なメディア間のネットワークの視点から考察し、地域メディアの将来の可能性などを検討する。（賈曦） |
| | ９ | 地域社会と教育メディア | 我が国の戦後社会における教養教育（国民の知）の内容と枠組構造（フレーミング）の解析への導入として、各期の『学習指導要領』に埋め込まれた学力とりわけ教育メディア活用力の内容と枠組みを系統樹構造化して俯瞰し、学校教育や社会教育の現場で地域メディア等の内容及びそれらを活用することの意義、普及・活用法がどのように志向されてきたかを考察する。（関谷融） |
| | １０ | メディアユニットのまとめ | グローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から、ネットワーク論、メディア論などに関連する社会・人間科学領域のアプローチによって地域社会に関する研究について受講者各自が全体的視野からの総括を行い、かつ理解を深化させることを目指す。（坂田謙司） |
| | １１ | 社会生活におけるワーキングメモリ | 自身のワーキングメモリ容量についての適切なメタ認知は、認知症の予防と認知症の啓発に重要な役割を果たす。本講義では、認知の中枢機能であるワーキングメモリの機能及び個人差と、認知的加齢がわれわれの記憶に及ぼす影響について概説し、出席者どうしで意見交換を行う。（大塚一徳） |
| | １２ | 家族間ネットワークと地域ネットワーク | 家族の個人化が進行していく中で、安心な子育て環境には地域とのつながりが影響してくる。まさに個人化したネットワークが地域社会とどのように交差するかである。本講義では、地域特性を考慮した家族間のネットワークのあり方、地域ネットワークのあり方について出席者間のデスカッションを通して多角的に探究する。（大重育美） |
| | １３ | 地域社会における臨床の知としての認知心理学 | 臨床現場における支援においては、支援を要する内容についての適切なアセスメントが重要となる。本講義では、受講生の興味の対象となる支援とその課題について共有するとともに、課題解決に向けたアセスメントや支援手法について、認知心理学、神経心理学、臨床心理学、教育心理学の立場から考えていく。（橋本（松本）優花里） |
| | １４ | 人間社会ユニットのまとめ | グローバル社会・ネットワーク社会・人間社会の観点から、認知科学などに関連する社会・人間科学領域のアプローチによって地域社会に関する研究について受講者各自が全体的視野からの総括を行い、かつ理解を深化させることを目指す。（大塚一徳） |
| | １５ | 講義全体のまとめ | 地域システム特講の総括を行い、受講者各自が今後の研究テーマの設定につなげていくための論点を整理する。（坂田謙司） |
| | １６ | 定期試験は実施しない | 成績評価については「成績評価の方法」欄参照 |
| 成績評価の基準 | | Ａ（優）・・・80～100点<br>Ｂ（良）・・・70～79点<br>Ｃ（可）・・・60～69点<br>Ｄ（不可）・・・59点以下 | |
| 成績評価の方法 | | レポート（講義の理解度を評価（受講した講義内容の中から２テーマ））・・・７０％<br>ディスカッション（参加姿勢も評価）・・・３０％<br><br>※情報工学分野及び人間栄養健康科学分野の受講生に対しては、当該分野の指導教員と協議のうえで適切なレポート題目を設定する。 | |
| テ　キ　ス　ト | | 適宜配布する。 | |
| 参考文献 | | 必要に応じて指示する。 | |
| 科目のキーワード | | 地域社会マネジメント、地域マネジメント、社会システム | |
| 授　業　の　特　徴 | | 大学院担当教員のオムニバス形式による授業、メディア授業。<br>課題については、教員の指示により適宜提出。 | |
| 関 連 科 目 | | 大学院・地域創生学専攻のすべての専門科目、地域社会マネジメント分野のすべての科目 | |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | | 選択必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の３分の２以上の出席を要する。 | |

| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | 情報セキュリティ特講（１年次・③） | 2単位 |

| | |
|---|---|
| 担当者職・氏名 | 教授・小林信博（科目責任者） |
| 授業概要とテーマ | 地域課題の解決のための基盤技術である情報セキュリティの観点から適用する６つの主題について基礎理解を深化させる。各主題においては、地域課題への適用を念頭に置いて講義をすすめる。各主題は以下の通りである。<br>(A)ネットワークセキュリティ、(B)暗号応用、(C)生体認証、(D)時系列データ解析、(E)セキュリティバイデザイン、(F) 制御セキュリティ |
| 到　達　目　標 | １．情報セキュリティにおける６つの技術テーマについて基礎を説明でき、受講生の専門テーマ以外のセキュリティ技術について理解する。<br>２．情報セキュリティ関連技術の地域社会マネジメント学、及び、栄養健康科学への適用事例を挙げることが出来る。 |

授業計画

| 回 | 主題 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ネットワークセキュリティ（１） | インターネット番号資源の管理を演習を含め学び、インターネットに接続する地域としての特性を考慮しつつ、大規模ネットワークのセキュリティを扱う。（岡田雅之） |
| 2 | ネットワークセキュリティ（２） | グローバルインターネットと地域折り返しのトラフィックの違いをセキュリティの観点から解説し学ぶ。（岡田雅之） |
| 3 | ネットワークセキュリティ（３） | 分散型サービス不能攻撃(DDoS攻撃)の現状を学び、エンドネットワークとしての地域特性を解説する。（岡田雅之） |
| 4 | ネットワークセキュリティ（４） | セキュリティインシデントの管理運用におけるインシデントレスポンの現状について解説する。（島成佳） |
| 5 | ネットワークセキュリティ（５） | セキュリティインシデントの管理運用における課題とその対処の科学的アプローチについて解説する。（島成佳） |
| 6 | 暗号応用（１） | 離島医療などの地域社会特有の通信需要を情報セキュリティの観点から理解し、対策の基本である対称鍵暗号および鍵共有等を学ぶ。<br>（星野文学） |
| 7 | 暗号応用（２） | 暗号応用（１）に引き続き、対策の基本である公開鍵、本人認証、及び、ディジタル署名等を学ぶ。（星野文学） |
| 8 | 生体認証（１） | 生体認証の基本的な概念を中心に、生体認証の手法や地域社会における取り組みについて学ぶ。（喜多義弘） |
| 9 | 生体認証（２） | 生体認証にて本人の識別に用いる機械学習法について学び、その課題を含む地域課題の解決法についてディスカッションを行う。<br>（喜多義弘） |
| １０ | 時系列データ解析（１） | 時系列解析に用いる基本的なモデルおよび適時地域課題への適用事例を学ぶ。特に、モンテカルロ法での実装に力点を起き、既存のシミュレーションモデルをプラグインすることで全体の解析系を構成できることを理解させる。（齋藤正也） |
| １１ | 時系列データ解析（２） | 事前分布の設計やアルゴリズムの並列化など推定性能を確保するための実装上の技術を紹介する。（齋藤正也） |
| １２ | セキュリティバイデザイン（１） | セキュリティバイデザインの観点から、地域課題解決を例題にシステム構築をする際にセキュリティ要件となりうる認証技術について学ぶ。（福光正幸） |
| １３ | セキュリティバイデザイン（２） | セキュリティバイデザインの観点から、地域課題解決を例題に機密性、真正性に着目し、これを実現するセキュリティ基盤技術である署名技術とその応用について学ぶ。（福光正幸） |
| １４ | 制御セキュリティ（１） | セキュリティ領域における制御セキュリティの適用領域と、安全・安心な地域社会の形成において制御セキュリティが果たすべき役割について理解する。（小林信博） |
| １５ | 制御セキュリティ（２） | 制御セキュリティ特有のセキュリティ機能，課題およびセキュリティ対策について理解し、攻撃事例・対策事例について学び、地域課題の解決に向けた技術の活用能力を養う。（小林信博） |
| １６ | （定期試験は実施しない） | （無し） |

| | |
|---|---|
| 成績評価の基準 | Ａ(優)・・・80～100点<br>Ｂ(良)・・・70～79点<br>Ｃ(可)・・・60～69点<br>Ｄ(不可)・・・59点以下 |
| 成績評価の方法 | レポート（講義の理解度を評価）・・・８０％<br>ディスカッション（発言内容と参加姿勢を評価）・・・２０％ |
| テ　キ　ス　ト | （特に定めない） |
| 参考文献 | （授業中に紹介する） |

| | |
|---|---|
| 科目のキーワード | 情報セキュリティ |
| 授　業　の　特　徴 | 講義形式だが演習も織り交ぜる。<br>メディア授業。 |
| 関 連 科 目 | 地域創生学特講、地域創生学演習 |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | （特になし） |

| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | 人間情報科学特講（１年次・④） | 2単位 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当者職・氏名 | | 教授・ソムチャイ チャットウィチェンチャイ（科目責任者） | |
| 授業概要とテーマ | | 地域情報工学における人間中心システムの構築のための技術要素として人間情報科学における５つの主題について基礎理解を深化させる。<br>(A)地理情報処理、(B)データベース(DB)技術、(C)観光情報サービス、(D)色彩情報、(E)感性情報処理 | |
| 到　達　目　標 | | １．人間情報科学における５つの主題について基礎を説明出来る。<br>２．地域課題に対して、地域社会マネジメント学、及び、栄養健康科学に関した適用想定事例を挙げることが出来る。 | |
| 授業計画 | 回 | 主題 | 授業内容 |
| | 1 | 地理情報処理（１） | 空間データと地理情報システムについて学び、地域課題への適用事例を紹介する。（平岡 透） |
| | 2 | 地理情報処理（２） | 点パターン分析とネットワーク分析について学び、地域課題への適用事例を紹介する。（平岡 透） |
| | 3 | 地理情報処理（３） | 空間相関分析と空間補間について学び、地域課題への適用事例を紹介する。（平岡 透） |
| | 4 | データベース（DB）技術（１） | DBシステムやデータモデルについて学ぶ。<br>（ソムチャイ チャットウィチェンチャイ） |
| | 5 | データベース（DB）技術（２） | 代表的な設計図（ER図）によるDB設計・DB構築について、地域の課題への適用例を交えて学ぶ。<br>（ソムチャイ チャットウィチェンチャイ） |
| | 6 | データベース（DB）技術（３） | DB標準言語（SQL）とその他の方法でのDBデータ照会について、地域の課題への適用例を交えて学ぶ。<br>（ソムチャイ チャットウィチェンチャイ） |
| | 7 | 観光情報サービス（１） | 観光情報サービスマーケティングについて扱う。（吉村元秀） |
| | 8 | 観光情報サービス（２） | 観光情報サービスデザインについて扱う。（吉村元秀） |
| | 9 | 観光情報サービス（３） | これからの観光情報サービスの提案・演習を行う。（吉村元秀） |
| | １０ | 色彩情報（１） | 色彩理論の概説：色知覚のメカニズム、色彩調和論、表色系とカラースペース、色覚特性等、色彩情報に係る主要理論を俯瞰し、地域における課題事例を紹介する。（片山徹也） |
| | １１ | 色彩情報（２） | 情報技術と色彩：デジタル空間における色彩情報の取扱手法について、色度測定、カラープロファイル等を用いて習得し、地域課題に対する活用法を紹介する。（片山徹也） |
| | １２ | 色彩情報（３） | 主観情報処理と色彩：色彩情報が人間に及ぼす影響を分析するためのアプローチ方法として、印象評価データの定量化と解析について学び、地域課題への適用方法を紹介する。（片山徹也） |
| | １３ | 感性情報処理（１） | 感覚・感性を測定するための心理学的手法について学ぶ。（山﨑陽一） |
| | １４ | 感性情報処理（２） | 感性の指標化・定量化を目的とした測定データに対する統計解析手法について学ぶ。（山﨑陽一） |
| | １５ | 感性情報処理（３） | これまでに学んだ感性情報処理の知識を用い、地域社会におけるQOL（生活の質）に直結する心の豊かさ（感性価値）をもたらす方法について、実例を交え学ぶ。（山﨑陽一） |
| | １６ | （定期試験は実施しない） | （なし） |
| 成績評価の基準 | | Ａ(優)・・・80～100点<br>Ｂ(良)・・・70～79点<br>Ｃ(可)・・・60～69点<br>Ｄ(不可)・・・59点以下 | |
| 成績評価の方法 | | レポート（講義の理解度を評価）・・・８０％<br>ディスカッション（参加姿勢も評価）・・・２０％ | |
| テ　キ　ス　ト | | （特に定めない） | |
| 参考文献 | | （授業中に紹介する） | |
| 科目のキーワード | | 人間情報科学 | |
| 授　業　の　特　徴 | | 講義形式だが演習も織り交ぜる。<br>メディア授業。 | |
| 関 連 科 目 | | 地域創生学特講、地域創生学演習 | |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | | （特になし） | |

| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | 基礎栄養科学特講（１年次・③） | 2単位 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当者職・氏名 | 准教授・駿河和仁（科目責任者） | | |
| 授業概要とテーマ | 基礎栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養科学・生命科学」に関する基礎研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。さらにこれらの各専門領域の基礎研究が地域の活性化にどのように貢献しうるかについての事例の提示やディスカッションを含めた講義も行う。 | | |
| 到　達　目　標 | １）基礎栄養科学領域研究の全体的な動向が理解でき、地域の健康維持・増進や活性化につながる方策についても考えることができる。<br>２）自身の研究領域と各教員の専門領域との関連性を検討することで、自身の研究の幅や取り組みを拡大できる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 主題 | 授業内容 |
| | １ | 食品衛生学（１） | 栄養健康科学における食品衛生学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（松澤哲宏） |
| | ２ | 細胞生化学（１） | 栄養健康科学における細胞生化学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（柴崎貢志） |
| | ３ | 食品機能学（１） | 栄養健康科学における食品機能学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（古場一哲） |
| | ４ | 有機化学（１） | 栄養健康科学における有機化学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（倉橋拓也） |
| | ５ | 代謝栄養学（１） | 栄養健康科学における代謝栄養学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（城内文吾） |
| | ６ | 栄養生理学（１） | 栄養健康科学における栄養生理学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（駿河和仁） |
| | ７ | 解剖生理学（１） | 栄養健康科学における解剖生理学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（田中進） |
| | ８ | 食品衛生学（２） | 栄養健康科学における食品衛生学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（松澤哲宏） |
| | ９ | 細胞生化学（２） | 栄養健康科学における細胞生化学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（柴崎貢志） |
| | １０ | 食品機能学（２） | 栄養健康科学における食品機能学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（古場一哲） |
| | １１ | 有機化学（２） | 栄養健康科学における有機化学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（倉橋拓也） |
| | １２ | 代謝栄養学（２） | 栄養健康科学における代謝栄養学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（城内文吾） |
| | １３ | 栄養生理学（２） | 栄養健康科学における栄養生理学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（駿河和仁） |
| | １４ | 解剖生理学（２） | 栄養健康科学における解剖生理学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。<br>（田中進） |
| | １５ | 総括 | 各講義の中から、受講生が興味を持ったテーマを選び、その内容について自身の専門分野からの見解も含めまとめ上げ、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。（全担当教員） |
| | １６ | 定期試験は実施しない | 成績評価については「成績評価の方法」欄参照 |
| 成績評価の基準 | Ａ(優)・・・80～100点<br>Ｂ(良)・・・70～79点<br>Ｃ(可)・・・60～69点<br>Ｄ(不可)・・・59点以下 | | |
| 成績評価の方法 | プレゼンテーション（第15回講義時の内容）・・・６０％<br>ディスカッション（質疑応答含む）・・・４０％ | | |
| テ　キ　ス　ト | 特に指定しないが、学術論文等の資料を各教員から適宜配布する。 | | |
| 参考文献 | 特に指定しないが、学術論文等の資料を各教員から適宜紹介する。 | | |
| 科目のキーワード | 健康、栄養科学、生命科学 | | |
| 授　業　の　特　徴 | 大学院博士後期課程人間栄養健康科学分野の担当教員のオムニバス形式による授業、メディア授業。 | | |
| 関 連 科 目 | 特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、実践栄養科学特講および「専攻共通科目」全般 | | |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | 選択必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の３分の２以上の出席を要する。 | | |

| カリキュラム区分 | 科目名 | 単位数 |
|---|---|---|
| | 実践栄養科学特講（１年次・④） | 2単位 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当者職・氏名 | | 准教授・駿河和仁（科目責任者） | |
| 授業概要とテーマ | | 実践栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養、食生活、運動」に関する実践研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。さらにこれらの各専門領域の実践研究を推進する上でどのような地域との連携が必要かについての事例の提示やディスカッションを含めた講義も行う。 | |
| 到　達　目　標 | | １）実践栄養科学領域研究の全体的な動向を理解し、地域の健康維持・増進と食生活・運動との関連や効率的な情報収集・解析、発振の手法についても理解でき、地域の活性化につながる方策について考えることができる。<br>２）自身の研究領域と各教員の専門領域との関連性を検討することで、自身の研究の幅や取り組みを拡大できる。 | |
| 授業計画 | 回 | 主題 | 授業内容 |
| | 1 | 臨床栄養学（１） | 栄養健康科学における臨床栄養学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（大曲勝久） |
| | 2 | 生活習慣病予防学（１） | 栄養健康科学における生活習慣病予防学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（世羅至子） |
| | 3 | 健康体力科学（１） | 栄養健康科学における健康体力科学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（飛奈卓郎） |
| | 4 | 栄養管理学（１） | 栄養健康科学における栄養管理学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（石見百江） |
| | 5 | 給食管理学（１） | 栄養健康科学における給食管理学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（本郷涼子） |
| | 6 | 栄養疫学（１） | 栄養健康科学における栄養疫学分野の研究方法や研究動向におよび地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（竹内昌平） |
| | 7 | 臨床栄養学（２） | 栄養健康科学における臨床栄養学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（大曲勝久） |
| | 8 | 生活習慣病予防学（２） | 栄養健康科学における生活習慣病予防学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（世羅至子） |
| | 9 | 健康体力科学（２） | 栄養健康科学における健康体力科学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（飛奈卓郎） |
| | １０ | 栄養管理学（２） | 栄養健康科学における栄養管理学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（石見百江） |
| | １１ | 給食管理学（２） | 栄養健康科学における給食管理学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（本郷涼子） |
| | １２ | 栄養疫学（２） | 栄養健康科学における栄養疫学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（竹内昌平） |
| | １３ | 臨床栄養学（３） | 栄養健康科学における臨床栄養学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（大曲勝久） |
| | １４ | 生活習慣病予防学（３） | 栄養健康科学における生活習慣病予防学分野の研究方法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。（世羅至子） |
| | １５ | 総括 | 各講義の中から、受講生が興味を持ったテーマを選び、その内容について自身の専門分野からの見解も含めまとめ上げ、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。（全担当教員及び駿河和仁） |
| | １６ | 定期試験は実施しない | 成績評価については「成績評価の方法」欄参照 |
| 成績評価の基準 | | Ａ（優）・・・80～100点<br>Ｂ（良）・・・70～79点<br>Ｃ（可）・・・60～69点<br>Ｄ（不可）・・・59点以下 | |
| 成績評価の方法 | | プレゼンテーション（第15回講義時の内容）・・・６０％<br>ディスカッション（質疑応答含む）・・・４０％ | |
| テ　キ　ス　ト | | 特に指定しないが、学術論文等の資料を各教員から適宜配布する。 | |
| 参考文献 | | 特に指定しないが、学術論文等の資料を各教員から適宜紹介する。 | |
| 科目のキーワード | | 健康、栄養、食生活、運動 | |
| 授　業　の　特　徴 | | 大学院博士後期課程人間栄養健康科学分野の担当教員のオムニバス形式による授業、メディア授業。 | |
| 関 連 科 目 | | 特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、基礎栄養科学特講 | |
| 履修上の注意等<br>（履修条件等） | | 選択必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の３分の２以上の出席を要する。 | |